

茨城県金融広報委員会
城里町立常北中学校

■実施報告

「金融教育研究発表会（城里町立常北中学校）」（11月19日開催）

【学校の特徴・概要】

城里町立常北中学校は、「人間豊かで活力に満ちた生徒の育成に努める」を教育目標とし、「凡事徹底」（常北中しぐさ）①授業集中②無言清掃③整理整頓を重点目標に掲げ、主体的に取り組む生徒を育てています。

11月19日（木）に金融教育発表会を開催し、研究校として2年間（令和元・2年度）金融教育に取り組んできた成果を発表したほか、2年生および3年生で公開授業を開催しました。また、住田裕子氏による講演会「生活に生きてはたらく金融教育の在り方」も開催されました。

<参加者内訳>

生徒 322名、開催校教員 32名、開催校保護者 72名、教育委員会 4名、他校教員 12名、合計 442名

1. 全体会

金融教育研究校の委嘱を受け、研究主題を「生活に生きてはたらく金融教育の在り方～キャリア教育（地域への感謝・貢献）の実践を通して～」とし、全教科・全領域において金融教育の研究に取り組んできました。研究内容は(1)金融教育についての知識・理解を深めるための金融教育の視点を生かした授業の実践(2)知識・理解を深めた上で「主体的に行動できる態度」を養うための家庭科や総合的な学習の時間での授業実践です。この2点から取り組んだ結果、(1)の実践では金融に対する知識・理解の向上につながりました。また、(2)の実践では「福祉施設へのマスク寄贈」や「地産地消のメニュー販売」などにより、地域の活性化に貢献することができました。2年間、金融教育の研究を継続したことによって、金融に関する社会の仕組みについて理解し、自分の生き方について考え、自分の地域のより豊かな生活に向けて主体的に行動できる生徒の育成につながりました。



2. 公開授業

(1) 社会科（公民的分野）「消費生活と経済」

「人生には様々な選択があり、計画性を持って生活していかななくてはならない」ことを「マネープランゲーム」によって生徒が体感しました。カードを引くことで、収入・基本的な生活支出・結婚・子ども・住居・イベント・アクシデントとそれに伴う費用が決まります。結果をシートに記入することで、記録・計算・振り返りを行いながら、お金を使うときの優先順位について、楽しそうに話し合っていました。シミュレーションゲームを通して、家計における収入と支出、貯蓄の関係などについて考えることができました。



(2) 家庭科「よりよい消費者を目指して」

ジグソー班（父、母、姉、自分）になり、エキスパート班（掃除機、洗濯機、ドライヤー、パソコン）で収集した情報内容を確認しながら説明をし、家族会議を行いました。そして、家族にとって必要なものの選択、購入の優先順位について考え、自分や家族の目的に合わせてグループで検討し、発表しました。修理のアイディア、Go to キャンペーン利用、節約術など、既習事項以外の考えもたくさん出され驚かされました。家族全員が納得できるよう、工夫された案が次々と出てくるので、聞く側にとっても有意義な時間となりました。最後のまとめを発表し、考察まで話し合うなど、深まりのある授業となりました。



(3) 総合的な学習の時間「生き方を考える」～働くって何だろう～

今年度は「職場体験活動」が中止となり、地域の方の講話を聞く「職業人に学ぶ会」を実施しました。本時は、ポスターセッションの準備のために、グループに分かれて話し合う時間でした。働くことの意味や意義について個人でまとめたことをグループで共有し、どのようなポスターを制作するのか意見交換しました。どうすれば聞いている人に伝わりやすいポスターになるのか、内容や図について真剣に話し合う姿が見られました。



3. 講演会

弁護士の住田 裕子氏から、「生活に生きてはたらく金融教育の在り方」と題する講演会が行われました。

講演では、「将来の夢はありますか？何になりたいか決まっていますか？」と問いかけ、講師本人の体験談から、勉強をすることの意味を分かりやすく話していただきました。また、生徒たちの兄弟姉妹の数から、自分たちの年代の出生率、両親の世代の出生率、祖父母の世代の出生率の変化について知り、人口減少の問題と長寿社会における問題点について真剣に考えることができました。その上で、社会に出たときに守らなければならないきまりや、大切にしたいことに触れ、生徒だけでなく、参加した保護者の方々にも「分かりやすく為になる話だった」と好評を得、学校・家庭・地域が共に学ぶ機会となりました。



4. 研究協議

3つの分科会において、授業者が、本日の授業についての工夫点や、今まで実践してきたことを発表しました。そして授業参観者が気付いたことを記入した付箋をもとに、全体で実践して効果的だったことや課題について話し合いました。学校で取り組むべき金融教育についての必要性や継続的学習の大切さについて活発な意見が交換され、実りある研究協議となりました。

5. プログラム

13:00～13:15

主催者挨拶 茨城県金融広報委員会副会長 鈴木 直行
城里町立常北中学校長 稲川 貞幸

13:15～13:30

研究発表

「生活に生きてはたらく金融教育の在り方

～キャリア教育（地域への感謝・貢献）の実践を通して～」

発表者 城里町立常北中学校教諭 横山 千登勢

13:35～14:25

公開授業

(1) 社会科（3年4組）「消費生活と経済」

(2) 家庭科（3年1組）「よりよい消費者を目指して」

(3) 総合的な学習の時間（2年全学級）「生き方を考える」～働くって何だろう～

14:40～15:40

講演「生活に生きてはたらく金融教育の在り方」

講師 弁護士 住田 裕子氏

15:40～15:45

閉会行事 講師へのお礼の言葉

生徒代表 熊田 漣

16:00～16:30

研究協議

第1分科会：社会科

第2分科会：家庭科

第3分科会：総合的な学習の時間

以 上